

## 7/31 香港財界訪日団が宮崎兄弟生家を視察 ～香港と友好交流～



▶左から前畑市長、宮崎黄石さん、ジョナサン・チョイさん、蒲島知事、香港貿易発展局の古田茂美さん

香港の財閥・新華集団総裁で、香港中華総商會会長でもあるジョナサン・チョイさんが宮崎兄弟生家を視察しました。

孫文の故郷・広東省中山市生まれのチョイさんは、全国各地で、日本経団連など各経済団体と交流し、最終日に荒尾市を訪問しました。

当日は、蒲島県知事や宮崎滔天のひ孫・宮崎黄石さんも同席しました。孫文が2度訪れた当時の風景が残る生家で、先人の功績を偲び、日本滞在最後のひと時を過ごしました。

## 8/7 犯罪のない明るい社会へ ～ヤングステージ in あらお～



▶観客を魅了しました。玉名高校 箏曲部 迫力の演奏で

ヤングステージ in あらおが文化センター小ホールで開催されました。これは、社会を明るくする運動の一環で、犯罪のない明るい社会を目指すものです。

ステージでは、歌やダンスなど、約180人がパフォーマンスを披露しました。前日の荒炎祭から連続出演の演者も多い中、皆さん元気溢れる演技で観客を沸かせていました。また、司会の高校生の2人も息の合ったMCで観客を笑顔にさせていました。

## 8/4 ようこそ荒尾へ！ ～新任のALT ジョール・マリナンさん着任～



▶ジョールさん(左)と、荒尾で2年目を迎えるミッシェルさん(右)

8月1日から、教育委員会に新しく着任したALT(外国語指導助手)のジョール・マリナンさんが、前畑市長を表敬訪問しました。

ジョールさんはイギリス出身で、1年間の任期で着任しました。海陽中学校を拠点に、関係のある小学校を巡回して英語の授業などを行います。

前畑市長は「語学と同時に欧米の文化を荒尾市の子どもたちに伝えてほしい。そして荒尾を満喫して」とジョールさんを激励しました。

## 5/25～8/31 来夏は取り組んでみませんか？ ～グリーンカーテンで涼しくおいしく～



▶目にも身体にも涼しいグリーンカーテンから、ゴーヤの収穫。

エコパートナーあらお市民会議の皆さんと共に市役所2階に設置したゴーヤのグリーンカーテンはすくすくと育ち、室内への日差しを弱めてくれました。グリーンカーテンの有無による日中の気温差は、市の実測で平均約1.5℃。晴れた日は3℃程差があることもあり、その有効性が実感されました。

グリーンカーテンに実ったゴーヤは、8月末までに150本以上になり、市役所を訪れた市民の皆さんに配布しました。

## Proud! Japan

東日本大震災の復興を支援しよう

## 東日本大震災 被災地をみんなで支援しよう！ ～被災地を支援する荒尾市の取り組み～



中山 和也 市民課  
6月13日～24日

大島 正智 福祉課  
7月1日～12日

山田 善行 総務課  
7月19日～30日

市では、県を通じて宮城県東松島市に職員を派遣しています。今回は6月13日(月)～24日(金)と、7月1日(金)～12日(火)、7月19日(火)～30日(土)に、1人ずつ派遣しました。職員は、東松島市役所で相談窓口対応、住宅の応急修理の受付、応急仮設住宅の助成申請に関する事務に従事しました。

東松島市役所では、震災後の業務量の増加から、慢性的な人手不足が続いているということです。仮設住宅が完成したこと必要な手続も増え、訪れる人もかなり多くなっています。また、仮設住宅が不足しているため、応急仮設住宅(民間の賃貸住宅を仮設住宅とみなし、家賃などを宮城県が負担するもの)の申請も受け付けていました。

住民の皆さんは、復興に向けて歩んでいる印象ですが、がれきの撤去や生活再建支援金の支給などは遅れています。しかし、厳しい状況におかれている住民の人から「復興した姿をぜひ見てもらいたい。また来てほしい」と言われたことが、とても印象に残ったそうです。また、現地を訪れ、被災地の実情を知ることができたことは、大変有意義であり、今後の支援に生かしたいと語っています。

被災地の状況は刻一刻と変わっていくため、状況に合わせたさまざまな形の支援を考える必要があります。市からも職員の派遣を続けていきますが、私たち一人一人が東北を見守り、つながり、今できる必要な支援を続けていきたいものです。



▲東松島市震災復興本部は、全国から寄せられた励ましの声に満ちています。ここを拠点に、東松島市は復旧・復興に向けて全力で取り組んでいます。



▲東松島市役所横で7月23日(土)に行われたお祭りは、にぎわいを見せていました。訪れた被災者の皆さんに、食事などがふるまわれ、長蛇の列ができていました。

**Proud! Japan 運動ロゴマーク**  
この運動は、「広報」から東日本大震災を支援する、自治体の広報担当者有志による運動です。静岡県伊豆の国市から始まり、今全国の広報担当者に広がっています。身近なところからエールを送り続けることも、被災地支援につながると考えます。広報あらおでは5月1日号から掲載しています。



▲前畑市長に義援金を託す関島さん(左)。「東松島市では、熊本県の人はとても感謝されています」と、現地の人から聞いた熊本県から派遣されている職員の活動ぶりについても話してくれました。

**Proud! Japan**  
**C Dの売り上げを義援金に**  
荒尾観光大使 関島秀樹さん  
8月3日(水)、荒尾観光大使の関島秀樹さんが市役所を訪れ、前畑市長に義援金を託しました。この義援金は、関島さんの復興支援アルバム「がんばる君のために～復活への約束～」の収益金です。また、関島さんは被災地で継続しているチャリティライブや、現地で活動しているボランティアについても報告しました。チャリティライブを行うことで大変感謝され、歌を届け話を聞くことが大きな力になることを実感している一方、却って被災地の皆さんに励まされていると話しました。状況が落ち着いたら、改めて交流を持ちたいと抱負を語りました。8月は、17日から10日間東松島市や遠野市を訪れ、チャリティライブを開催しました。